



海草支部

和歌山市支部

那賀支部

伊都支部

有田支部

# 紀州さんぽ散珠つなぎ

新宮支部

串本支部

田辺支部

日高支部

## 一乗閣(旧和歌山県議会議事堂)

今月は那賀支部から、岩出市の根来寺山内に建つ「一乗閣」を紹介します。尚、この文章は大阪市立大学工学部 助教授 福田晴慶先生(調査当時)による「旧和歌山県議会議事堂調査報告書」(平成4年3月)より抜粋させていただきました。



全景

「一乗閣」は、旧和歌山県議会議事堂が明治30年に建設され40年前に根来寺境内に移築された建築物で、当時は山内の様々な催しや、合宿施設などに利用されていたが、昭和50年代以降は建物の痛みが甚だしくなり、利用されることが少なくなりました。しかしようやく県によって修復保存されることになり現在、移築先を検討されているところです。

### 建物の沿革

廃藩置県後の和歌山県は、しばらくの間独自の庁舎を持たず、市内の民家などを利用していました。明治9年12月に旧藩倉を改造して庁舎(議事堂は含まれていない)を建設するが明治21年1月に焼失し、翌22年3月31日に、木造2階建、洋風の新局舎が、一番丁に完成しています。(規模等については不明)。しかしこの時点でも県議会議事堂は含まれておらず、ようやく明治30年11月5日に議事堂が上棟され、おそらくその年内に竣工したものとみられています。



玄関降棟飾

### 建物の現状・概要

一番丁にあった当時の配置状況、設計図、設計者等は不明のままであり、木造和風で建坪300坪をこえる規模は、当時最大級のものであったと思われます。

昭和13年に現県庁舎・議事堂が完成したのに伴い、この建物は昭和16年に和歌山県農協中央会に委譲・移築され、更に昭和37年、根来寺に移築されて、大講堂・客殿「一乗閣」と命名、本坊南側の敷地に移築されました。

敷地は根来寺本坊への竜宮門の東側の少し低くなった棚状の場所にあり、国宝大塔の西南に位置します。建物は、東西に棟を通す議場部に、唐破風の主玄関を持つ管理諸室を納める南北方向棟がT字形にとりついた形をしており、主玄関を西に向けて置かれています。



演壇

木造真壁造り、棧瓦葺、入母屋造、2階建てで、西側に玄関車寄せを有し、唐破風で降り棟端には唐獅子の飾りが置かれています。鳳凰をかたどった複雑な彫り物を兎毛通(うおのけどおし)にあて、妻飾りは大瓶束虹梁式(たいへいづか こうりょうしき)で、複雑な波形の彫物の笄形(おいがた)がとりつき、虹梁には雲形の彫刻が施されています。

角柱は上下に粽をつけ、天井は格天井で石段を上がり玄関ホールに入ります。

基礎は御影石布基礎3段積みの石積みで、要所に円頂形の床下換気口を設け、鋳鉄製のグリルが入っています。

外壁は、各階腰をささら子下見張で白漆喰仕上げ。1、2階とも腰と内法高さに長押をめぐらしています。

内部で圧巻はやはり1階議場と2階ギャラリーの大空間で、



2階 ギャラリー

床は全て板床、議場のみ板床の上に敷物を敷いている。天井は議場中央部が折り上げ格天井となっているが、それ以外はすべて平天井。議場内側には長押がめぐらされている。演壇前面上部には唐破風がとりつけられ、木彫の飾が嵌めこまれている。議場の三方をめぐる2階ギャラリーは低い和風勾欄をめぐらし独特な空間を持っています。



議場

管理部の2階の諸室は、応接や議員控え室、委員会室などとして用いられたと考えられます。議場を取り巻く廊下、2階ギャラリーなどは傍聴人のために充てられていたと見られますが、「議場」は、県議会議事堂としてはやや異例の広さであり、議会の審議の場としてよりは、県民の為の公会堂的な性格を持たされていたように思われます。当時の県会の議員

数は多く見積もっても数十人を超えることはなかったはずで、普段の審議には管理部2階の広間で充分だったと思われ、こうした「県民ホール」的な空間をそなえた議事堂は当時としてはきわめて特異なものであったと思われ、これがこの建物の最大の特徴になっていると言えます。

規模(ただし推定計画寸法による)

東西長さ(西側玄関車寄せ・東側玄関分を除く)	36.814m
南北長さ	30.906m
棟高(G.Lより棟木上端まで)	12.030m
1階床面積	937.1㎡
2階床面積	586.1㎡
延床面積	1,523.2㎡

那賀支部 大前高志